

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (令和3年度実績)

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	C
横断的な課題	健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり				
地域重点政策	健康長寿と地消地産の推進を核とした地域づくり				
実施機関	佐久保健福祉事務所			担当課	所属
事業名	さくさく野菜食べよう350推進キャンペーン			所属	健康づくり支援課
				電話	0267-63-3163
				E-mail	sakuho-kenko@pref.nagano.lg.jp
目的 (目指す姿)	○野菜摂取及び減塩のための取組を佐久地域の健康づくり・食育関係機関・団体が連携し推進する。 ○住民の健康づくりを推進し、地域の活性化を図る。				
現状と課題	○長野県の野菜摂取量は全国1位であるものの1日の目標量350gより少なく、特に働き盛り世代の野菜摂取量が少ないことが課題となっている。また、信州保健医療総合計画では食塩摂取量の目標値を8g未満としているが、平均摂取量は目標値より多い。野菜摂取量が多い人ほど食塩摂取量が多いことも明らかとなっているため、調理や献立における食塩の摂り過ぎに対する取組も重要となっている。 ○佐久地域は高原野菜を中心に県内屈指の農業地域であり、地元食材の魅力の普及により、地消地産を推進することが重要である。				
概要 等	内容 (変更後の内容)	1 地域への働きかけ(啓発普及・特定保健指導) ・市町村等が行う特定保健指導や食育関係団体等と連携した普及啓発 ・食と健康に関する情報発信イベント「健康と食のセミナー」の開催 (開催日:令和4年1月31日、対象者:住民、健康づくり関係団体、農政関係団体、市町村等) 2 働き盛り世代への取組の実施 ・住民(保護者等)への啓発普及 (企業、保育所、乳幼児健診、特定保健指導等において地域課題に係るリーフレットを活用) ・塩分チェックシートによる啓発普及 3 直売所、スーパー等と連携した取組の実施 ・野菜レシピの作成			
	事業期間	令和3年4月 ~ 令和4年3月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	地域での働きかけ	リーフレット印刷等 食と健康に関する情報発信イベントの開催	156,000		
	働き盛り世代への取組の実施	住民への啓発普及	66,000		
	直売所、スーパー等と連携した取組の実施	野菜レシピの作成・配付	170,000		
	合計	392,000			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	食塩摂取量の減少(佐久地域男性11.3g、女性11.6g)		減少	減少	○ 達成
	健康意識の向上(出前講座等のアンケートで把握) (R1塩分チェックシート「塩分を気をつけている人の割合」男性54.4%、女性71.5%)		増加	一部増加	● 一部達成 ○ 未達成
事業実績・成果	○食塩摂取量については、栄養調査等の実施がなく、実態把握ができなかったが、塩分チェックシートによる簡易チェックによると、R元年:「男性14.8 女性12.6」が、「男性14.2 女性11.7」と減少し、食塩摂取量の減少傾向がみられた。塩分への意識である塩分を気をつけている人の割合は、男性52.3%、女性72.2%となり、女性では改善傾向がみられた。 ○食と健康に関する情報発信イベント「健康づくりと食のつどい」を3月22日に開催した。当初は1月22日にWeb併用のハイブリット方式で開催の予定であったが、新型コロナウイルスのまん延状況に鑑み、延期の上、Webのみで開催した。食を健康面だけでなく、SDGsの視点で考える等、様々な切り口で捉えることができた。開催後のアンケートでも、参加者からは好評であった。 ○市町村の保健指導、乳幼児健診等で、野菜摂取と適正な塩分摂取に活用できるようリーフレットを作成した。 ○健康づくりのボランティアである食生活改善推進員の協力を得て、野菜の摂取を行うための具体例として、レシピカードを作成し、直売所、スーパー等に配付を行い啓発普及を図った。 ○年度当初に、市町村や栄養教諭、養護教諭、食生活改善推進員、農村生活マイスター等の食に関する関係機関による食育推進連絡会を開催し、関係機関との連携を図った。				
今後の方向性	○今後とも、関係機関、食育ボランティアと連携しながら、県民の健康長寿のために関連事業を展開していく。				